

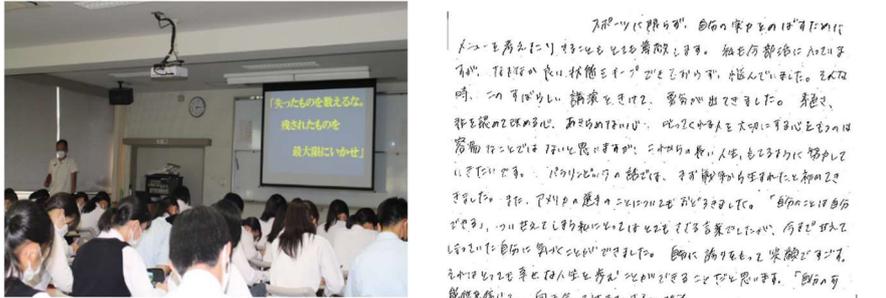
令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 愛知県立岡崎東高等学校 】

1 実践テーマ	【Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】
2 実施対象者	1年生全員 240名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 産業社会と人間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	本校は教育目標のなかで「心豊かな若人」の育成を目指しており、ライフサポート系列の生徒や生徒会、JRC部が中心となって積極的にボランティア活動・障がい者理解に取り組んでおり、学校全体として「共生社会」の良き貢献者になるべく活動している。これらの活動の一環としてさらなる「ボランティアマインド」「障害者理解」の資質育成を目指す。
5 取組内容	<p>本校JRC部は令和2年度の高校生ボランティアアワードで平原綾香賞を受賞し、全国の新聞15紙に紹介されている。また令和3年5月には、国際ソロプチミスト岡崎から表彰を受け、中京テレビ「キャッチ！」でコンタクトケース回収運動が放映されるなど、地道な活動が高く評価されている。また、ライフサポート系列（看護、福祉、保育等を目指す系列）の授業の中では、岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンターと連携した福祉教育プログラムを実施しており、車いす体験・視覚障がい体験・聴覚障がい体験・発達障がい体験等を続けている。5月の球技大会ではパラリンピック種目であるボッチャが種目に選ばれ、生徒会を中心に、競技理解のための動画や競技道具の準備をし、多くの生徒が競技を楽しんだ。</p> <p>以上のように、本校では学校全体として「共生社会」の良き貢献者になるべく活動している。これらの活動の一環として今回の事業も位置付けている。</p> <p>(1) 事前指導 7月20日（火）第1回アンケート実施 8月31日（火）第2回アンケート実施 事前学習 パラスキーについて学習する。</p> <p>(2) 講演会 講師 小池岳太（パラ・アルペンスキー） 9月13日（月）第6時限目 産業社会と人間 14：25～15：15 本校プレゼンテーションルーム</p>

	 <p>プレゼンテーションルーム西入口 展示 プレゼンテーションルーム前方 展示 小池岳太選手の実演 (片手でペットボトル開きますか)</p> <p>(3) 事後指導 9月16日(木) 第3回アンケート実施・ワークシート記入</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会では、小池岳太選手が体験してきたこと、今感じていることをわかりやすく伝えていただいた。生徒の心に深く残り、生きる力を与えてくれる内容で、多くの生徒が「感動した」「自分の可能性を信じたい」などの感想をもち、すばらしい体験となった。 ・「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ。」の言葉を聞き、あきらめずに自分の可能性を信じることの大切さを学んだ生徒が多かった。 ・小池岳太選手を応援すべく冬季オリンピック北京大会への関心が大いに高まった。 ・学校全体として「共生社会」の良き貢献者になるべく教育活動をしているが、今回の事業でさらに共生社会への認識が深まった。 <p>小池岳太選手の講演会 生徒の感想の例</p> 
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>御本人の希望もあるが、対面での講演会を実施することができ大変充実した事業であった。ワクチン接種の確認・事前の体調確認と陰性証明を小池選手に求め、学校側も万全の感染予防対策をとり実施した。プレゼンテーションルーム両側の出入り口には、パラリンピック用の器具を展示し、生徒は実際に触って実感することができ、講演会の生の言葉に強く感動していた。本校は共生社会の貢献者の育成を目指しており、春の球技大会(ボッチャ)やライフサポート系列の授業(福祉教育プログラム)とあいまって学校全体にととても良い効果が得られた。</p>  <p>春の球技大会(ボッチャ) ライフサポート系列の授業(車椅子で運転できる車の実演)</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>とても良い事業なので、継続的に実施できると素晴らしい。このような機会があれば、ぜひまたエントリーしたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>「心豊かな若人」の育成を目指して、来年度も積極的にボランティア活動・障がい者理解に取り組んでいきたい。</p>